

# 伝統的工芸品産業事業者の 魅力を伝える 知的資産経営報告書

～伝統的工芸品産業の魅力とそれを支える知的資産を明らかにする～

桐本木工所

デザインされた木とうるし  
オーダーできる木とうるし  
使い手の立場からの木とうるし  
いつも暮らしの中で「木とうるし」を  
もっと使ってもらいたい  
若手から熟練の職人が、そんな思いを  
様々な「かたち」にして  
提案し続ける輪島キリモト

輪島  
キリモト

2011年3月発行

# INDEX

1. 当社の代表製品	.....	1
2. 当社の概要	.....	2
3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり	.....	3
4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産	.....	4
5. これからの挑戦	.....	5
6. 代表補佐からのメッセージ	.....	5
7. 作成支援士業コメント	.....	6
8. 知的資産経営報告書とは	.....	8

## 1. 当社の代表製品



## 2. 当社の概要

### ■ 経営理念

木やうるしのモノを今の暮らしに広めることで、人々の「気持ち良い生活」を応援していくこと。  
輪島の職人さん、この動きにかかわっていただく多くの方々、家族、親族と一緒に成長していくことを目指します。

### ■ 当社の特長

#### ● 普段使いの「いつものうるし」

漆器は、天然塗料である漆を使っているため、手に馴染み、唇には柔らかく、見る目にも美しく、ヒトの感性を豊かにします。この漆器を特別な日だけに使うのはもったいない。輪島キリモトは、普段使いの「いつものうるし」をお客様に提供します。

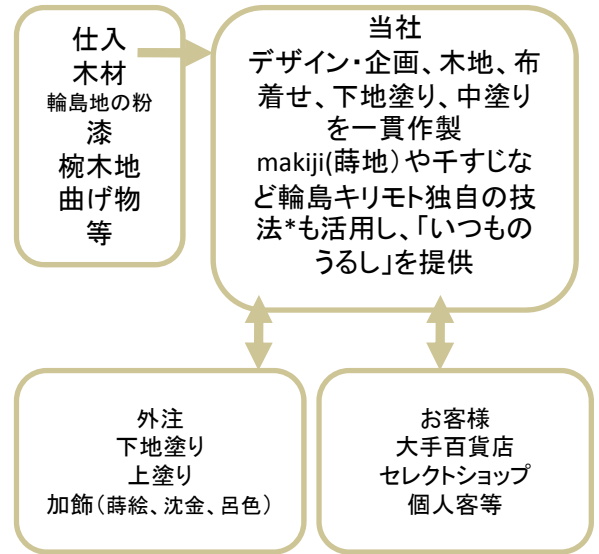
#### ● 独自技法

漆器は金属スプーンを使うと傷ついてしまう。傷つきやすい食器は、普段使いになりにくい。そこで、輪島キリモトは、輪島産地でも見ることができた蒔地技法を独自に応用（「makiji(蒔地)技法」）し、金属カトラリーを使っても傷つきにくい表面硬度とすることに成功しました。

#### ● 普段使いのうるしの活用方法を発信

水分で固まる漆は、水分がなくなると塗膜が痛む。だからうるしは毎日使って、毎日洗うことで水分補給してあげることが大切です。輪島キリモトは、メディアや雑誌等を通じて、うるしの活用方法を発信しています。

### ■ 当社のビジネスモデル



\* makiji(蒔地) 蒔地技法(漆と輪島地の粉のみを使う下地塗り技法)を独自に応用した金属のカトラリーを使っても傷つきにくい表面硬度にする技法  
干すじ 布着せ後、輪島地の粉と漆のみを特殊な刷毛で塗りこみます。時代がかった特殊な色には、真っ白なご飯や色とりどりの野菜を使った料理などが映えます。

### ■ 企業概要

【代表】 桐本俊兵衛(きりもととしへい)  
【代表補佐】 桐本泰一(きりもとたいいち)  
【住所】 石川県輪島市杉平町成坪32  
【業種】 漆器木地・木製品・漆の器、家具、建築  
内装材などの企画製造販売  
【従業員数】 17人  
【URL】 <http://www.kirimoto.net/>

### ■ 沿革

江戸後期	桐本久太郎輪島漆器の製造販売を行う
昭和4年	桐本久幸朴木地屋を創業
昭和27年	桐本俊兵衛が事業承継
平成12年	ギャラリーわいち設立
平成16年	日本橋三越本店に「輪島キリモト」出店
平成19年	ルイ・ヴィトンから依頼を受け漆の六角形小箱「BOITE LAQUEE WAJIMA」を製作
平成21年	東京都江東区に漆の事務室(東京事務室)開設

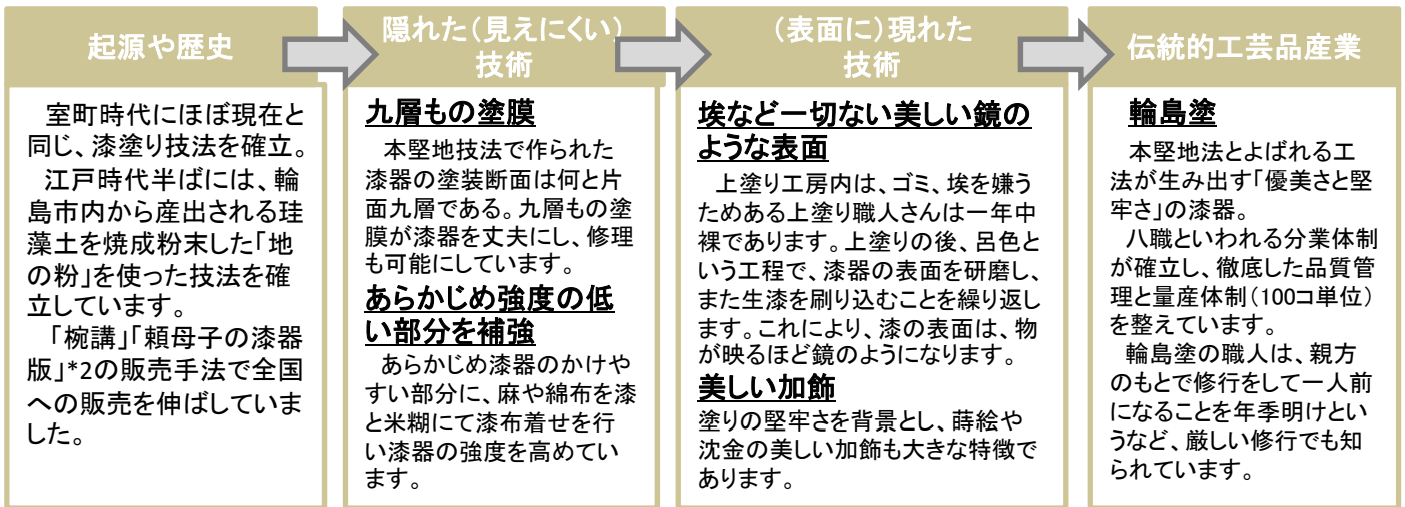
### ■ 連絡先

TEL : 0768-22-0842 FAX : 0768-22-5842  
E-Mail : houkiji@big.or.jp 担当者: 桐本泰一

### ■ アクセス



### 3. 伝統的工芸品産業の歴史や当社のこだわり

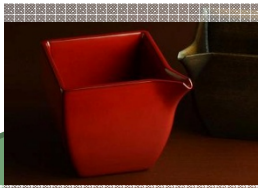


\* 2 全国各地に輪島塗購入の積み金を行うグループを作り、そのお金でまとまった漆器を購入する仕組み

#### ■ 当社のこだわり

### いつも暮らしの中でつかわれる「木とうるし」

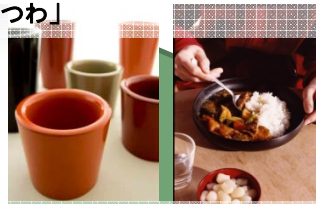
暮らしの中で使う「うつわ」



暮らしの中で使う「木製品」



暮らしの中で使う「家具」



暮らしの中で使う「小物」



人を大切にする社風

輪島キリモトの根幹は人です。  
輪島キリモトの作品は、  
「若手からベテランから構成される職人」  
「桐本泰一の代弁者となって活躍している東京スタッフや本社スタッフ」等  
すべての人が携わって作られています。



先代、先々代から受け継いだしっかりとおち着いた木材



天然素材の漆



輪島地の粉

輪島キリモトは産地を背景としたものづくりを行っています。

輪島キリモトは、いつも暮らしのなかで「木とうるし」をもっと使ってもらうため、「しっかりと落ち着かせた木材」、「天然素材の漆」を「若手から熟練の職人の手」によって、様々な「かたち」にして提案します。

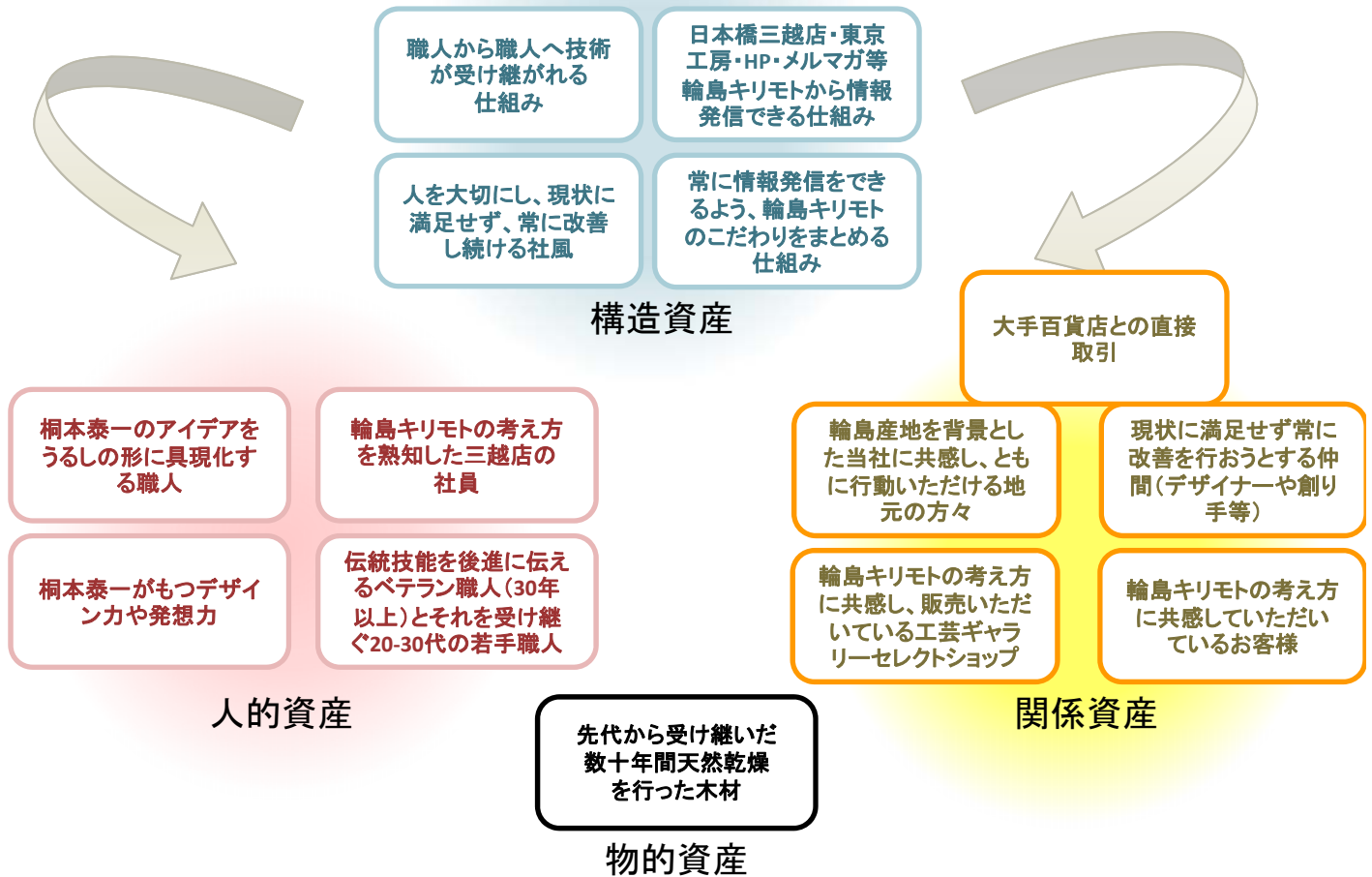


## 4. 当社が提供する価値とそれを支える知的資産

### ■ 当社のこだわりはなぜ形成されたの？（過去から現在の価値創造のストーリー）

わかりやすい説明	お客様の要望を うるしの形で具現化する	新しい技法
<p>桐本泰一は、漆器が、世の中から受け入れられなくなっている理由は、生活様式の変化もさることながら、情報発信や新しい提案が足りないのではないかと考えています。そこで、漆器の起源や漆という塗料の特徴など、皆様にごできる限りわかりやすい言葉で、伝えるようにしました。さらに、皆様に漆器のことを理解いただくためのツール(本、パンフレット、パワーポイントのデータ等)の充実を図っています。</p>	<p>桐本泰一は、大学で工業デザインを専攻、企業ではオフィス設計に携わった後、輪島に帰郷しています。他業界での経験をもつ桐本泰一は少しでも多くの人々に木や漆を知ってもらい、使ってもらえるモノを創ることを基本的考え方とし、できる限りお客様の要望をうるしの形で具現化することに努めてきました。この姿勢が、ルイ・ヴィトン等のさまざまな物件を手掛ける原動力となっています。</p>	<p>普段使いのいつものうるしは、これまでの技法をそのまま使うだけでは実現しません。やはり、技法も時代に合ったものにする必要があります。そんな桐本泰一の思いから、Makiji(蒔地)や地塗り干すじ技法が生まれました。Makiji(蒔地)技法は、金属スプーンも使えるうるしのために、地塗り干すじ技法は、真っ白なごはんや色だくさんのお野菜を使ったり料理の表情を栄えさせるために開発されています。</p>

### ■ 当社のこだわりはどのような人や仕組みで支えられているの？



## 【提供する顧客価値】 いつも暮らしの中につかえる「木とうるし」

桐本泰一がもつデザイン・発想力、うるしの形に変える若手職人、またこの考え方をお客様に伝える販売員が一体となって木やうるしのモノを今の暮らしに広め、人々の「気持ち良い生活」を応援することを支えています。

また、常に現状に満足しない社風や情報発信力も新しいうるしを創り出す原動力となっています。そしてこの活動は、輪島キリモの考え方に共感いただいている外部協力者やパートナーなくして継続することはできません。

## 5. これからの挑戦

- 当社は常に進化します。(未来の価値創造のストーリー)

さらに分かりやすい説明	輪島・石川の地でのおもてなし	日本文化を海外へ
<p>木やうるしのモノを今の暮らしに広めるためには、今よりさらに分かりやすい説明を多くの方にする必要があります。そのためには、桐本泰一がさらに説明する能力を高めるとともに、桐本泰一が直接説明しなくてもその思いが伝播していく仕組みづくりが必要であります。具体的には、木やうるしを説明するための道具(キット化)等お客様に見て触れて感じていただくことを推進します。</p>	<p>これまでは、東京等輪島以外の地域で輪島キリモトの考え方を伝えたり商売を行ってきました。しかし、これからは、それに加え、輪島キリモトの考え方に共感いただける方に、輪島や石川県に来ていただき、その良さを見て触れて感じていただくようにします。具体的には、輪島キリモトの工房見学を強化し、また、地元の農産物、海産物、文化宿泊施設に携わる方と連携し、一緒になって地元の良さをアピールすることあります。</p>	<p>輪島キリモトは、これまで、日本橋三越店やトラヤフランスを通じて、海外に向けて情報発信を行っています。輪島・石川の地域活性化のためには、海外マーケットも視野に入れた活動が必要であり、今後はこれを強化します。具体的には、フランス・イギリス・ドイツ等の欧州、台湾・シンガポールなどの東南アジア、そして、アメリカをはじめとする北米であります。まずは、これまで当社が手掛けてきた説明資料をまとめそれを外国語訳することから始めていく方針であります。</p>

## 6. ～代表補佐（桐本泰一）からのメッセージ～



### 経歴

昭和37年 石川県輪島市に生まれる  
昭和60年 筑波大学生産デザインコース卒業、コクヨ株式会社に入社  
昭和62年 桐本木工所入社  
平成12年 輪島で作り手仲間と一緒に「ギャラリーわいち」設立  
平成17年 いつものうるし(監修:ラトルズ刊)出版  
筑波大学、金沢大学、佐賀大学、金沢美術工芸大学、輪島高校等の非常勤講師を務めている。

漆器産地であるこの土地で、輪島キリモト・桐本木工所は、漆器から木地にいたるまで約150年以上、モノ作りに関わっています。

そんな桐本の創作テーマは「いつものうるし」。

「デザインされた木とうるし」「オーダーできる木とうるし」「使い手の立場からの木とうるし」いつも暮らしの中で「木とうるし」をもっと使ってもらいたい。若手から熟練の職人が、そんな想いを様々な「かたち」にして提案し続けています。

3代目の桐本泰一。幼少期は工房の木くずに埋まって遊んでいました。モノづくりに興味を覚えたのは中学、高校。工業デザインを専攻した大学時代。社会に出てからはオフィス設計に従事しました。

帰郷した輪島では漆器木地業の弟子修行を4年。じっくりと産地内を見続けました。そういった動きを続けることで産地の職人、手の動き、人間関係、販売システムなど奥底を学ぶことができ、現在は木地の職人だけでなく、漆を専門に手がける職人も工房内に加わることになりました。結果、創作の領域はさらに広がっています。

また、産地内の職人、異業種の創り手たちとの交流、都市部で暮らしを愉しむデザイナーとの共作など、ヒトとの和、繋がりをを大切に、困難ではあるけれど、とても貴重な仕事にも挑戦できるようになりました。

日本の手作りは厳しさが増すばかりですが、桐本木工所には、しっかり落ち着かせた木材料、代々受け継がれてきた木地製作の技、漆の新しい可能性を探る創造力、「人の手」から生まれる美しいモノたちがたくさん存在します。

輪島工房ではベテラン、中堅の職人から若い職人へモノ作りの神髄を伝えます。多種にわたり複雑なモノ作りのプロデュース、製造・経理管理もしっかりと行います。また、木や漆を学び触れたり、海外勤務、金融など様々な経験を積んだ東京のうるしの事務室スタッフが、工房の想いと生み出されるモノの本質を使い手の方々へ広げていきます。力溢れる人々に囲まれてうれしいかぎりです。私はそんな人々と一緒に自分たちの原点を再確認するとともに、ほんものの「木」と「漆」の美しさ、優しさ、強さを伝えていきたいと思っています。

## 7. 作成支援士業コメント

中小企業診断士 西井克己

輪島キリモト(以下、「当社という。’)は、桐本泰一という人的資産に注目されがちです。私は、当社の知的資産経営支援を通じて、当社は1人のスタープレーヤーに依存しているわけではないことに気づくことができました。すなわち当社が提供している価値「いつも暮らしの中でつかえる木とうるし」は、桐本泰一のみによって支えられてわけではなく、人を大事にする社風から集った社員、常に迅速に情報発信できるよう当社のこだわりをまとめる仕組み、当社の理念に共感し、ともに汗をかいてくれるセレクトショップオーナーやデザイナー等のこの報告書で明らかになった多くの知的資産によって支えているといえます。さらに、当社の製品は、「3代目」桐本泰一が受け継いだ数十年間天然乾燥を行った木材なくして作製できません。これらが、一過性のブームを狙うのではなく、「いつも暮らしの中でもっと木とうるしを使ってもらいたい」という一貫したメッセージを提唱し続ける輪島キリモトの姿勢に表れていると思います。当社が、この姿勢を貫き通すためには、人を大切に作る社風など、当社が当たり前と思っていたながら無くなってしまおうと大変なことになってしまう知的資産に気づきそれを大切にすることが重要であります。当社が、この知的資産経営報告書作成を通じて、気付かれた知的資産をこれまで以上に大事にされることを期待します。そして当社が知的資産を、「4代目」「5代目」へと引き継ぎ、木やうるしのモノを世の中に広め、人々の気持ち良い生活を応援していることを期待します。

行政書士 勝尾太一

「輪島キリモトは、より多くの方々に使っていただける商品をお届けする。私たちはアーティストではないんです。」3代目桐本泰一氏の言葉に輪島キリモトの理念がよく現れています。

輪島漆器は、厳しい修行により、長年に亘り受け継がれてきた技(わざ)、あるいはその根底にある志(こころざし)をも体得した職人により生み出される伝統工芸品の典型です。伝統工芸品、美術工芸品としての価値を備える輪島漆器は、晴れの席、特別な場面に用いることはあっても、普段使いに用いようとするのは少ない。しかし、輪島キリモトは、天然素材である“木”と“うるし”そのものが持つ機能に着目し、この素材を活用した商品をより多くの方々に使ってもらいたいと純粋に考えております。江戸時代末期から輪島漆器との関わりを持ち、昭和初期に木地屋を創業してから80有余年、平成の時代に輪島キリモトが掲げる理念は大きな意義があると考えます。この知的資産経営報告書でお伝えした通り、輪島キリモトの理念は、人的資産、構造資産、関係資産の底流をなしております。

ご紹介した個々の知的資産が充実し相互に機能し始めたところですが、強化すべき知的資産の内容も明らかとなってきました。あたかも空気のように、当たり前が存在し、気にも留めなかった“もの”や“わざ”を知的財産権という形にして見せることが一つのポイントとなってくると考えます。例えば、輪島キリモトが創り出す商品の知的財産権に関する取扱い方針の見直し及びその強化などです。それは、直接、構造資産の強化に繋がるだけでなく、“わざ”から生み出された“もの”が具体的な権利として価値を持つことを明らかにすることにより、商品を創り出す職人、あるいはそれをより多くの方に伝える役割を果たすスタッフのモチベーションを高める契機となり、あるいは大手百貨店、海外企業に対する信用力を高めるなど、人的資産、関係資産の強化も大いに期待されます。

まだまだ多くの可能性を秘めた輪島キリモトに期待します。

## 7. 作成支援士業コメント

弁理士 横井敏弘

桐本木工所(以下「当社」)は、輪島塗の産地にあり、その伝統を尊重し承継しています。特に、地域の伝統を深く理解し、熱心に外部へ発信されようとする姿を拝見すると、輪島地域で共有されてきた知的資産を、しっかりと承継されていることが伺えます。

一方で、当社は、伝統な漆器の枠にとらわれず、新しい試みを積極的に行っている。時代とともに変化するニーズを的確にとらえ、それに応えようとする姿勢。漆器の新たな可能性を探求する姿勢。この二つが当社の強みであると考えます。

### (1)ライセンス戦略

当社の新しい試みは高い評価を受け、注目されています。当社のノウハウをライセンスした実績も存在し、その打診も多数存在します。これまでは、品質管理や技法の陳腐化などを懸念し、ノウハウのライセンス供与に消極的であったのかもしれませんが、しかしながら、当社の試みを世に広め認知してもらうためには、当社のみでの取り組みでは限界があります。今後は、当社のノウハウ等を協力的な企業等に積極的にライセンスし、その普及を加速させることも検討頂きたい。

### (2)ブランド力の構築

「輪島塗」のブランド力に寄りかかるのではなく、「輪島キリト」ブランドを輪島地域だけでなく日本各地・世界各地にまで発信し育てていく姿勢を維持して頂きたい。その際、新規技術「makiji」及び「干すじ」などの名称も、「輪島キリト」ブランドの一部と位置付け、同様に育てていくことが有用であります。また、上記ライセンス戦略もブランド力の強化に資するものと考えます。

商標権の取得は、商標(ブランド名)の継続的な使用等の観点から必須であると考えます。全体の戦略とコストを勘案して、適時の権利化を検討して頂きたい。

### (3)海外での販路構築

海外でのブランドイメージ構築においては、これまでに作成された日本向け資料に、各国向けの追加資料が必要であります。

また、知財リスクは国毎に異なるため、それぞれの国に応じた対応が必要であります。

今後も、輪島地域で受け継がれてきた知的資産を尊重すると共に、これに囚われず新たに知的資産を生み出していくことが、当社の知的資産の最大化に繋がるものと考えます。



## 8. 知的資産経営報告書とは

### 【意義】

「知的資産」とは、従来のバランスシートに記載されている資産以外の無形の資産であり、企業における競争力の源泉である人材、技術、技能、知的財産(特許・ブランドなど)、組織力、経営理念、顧客とネットワークなど、財務諸表には表れてこない、目に見えにくい経営資源、すなわち非財務情報を、債権者、株主、顧客、従業員といったステークホルダー(利害関係者)に対し、「知的資産」を活用した企業価値向上に向けた活動(価値創造戦略)として目に見える形で分かりやすく伝え、企業の将来に関する認識の共有化を図ることを目的に作成する書類です。経済産業省から平成17年10月に「知的資産経営の開示ガイドライン」が公表されており、本報告書は原則としてこれに準拠して作成いたしております。

### 知的資産のイメージ



### 【注意事項】

本知的資産経営報告書に掲載しております将来の経営戦略及び事業計画並びに附随する事業見込みなどは、すべて現在入手可能な情報をもとに、弊社の判断にて記載しております。そのため、将来に亘る弊社を取り巻く経営環境(内部環境及び外部環境)の変化によって、これらの記載する内容などを変更する必要を生じることもあり、その際には、本報告書の内容が将来実施又は実現する内容と異なる可能性もあります。よって、本報告書に記載した内容や数値などを、弊社が将来に亘って保証するものではないことを、充分にご了承願います。

この知的資産経営報告書は、石川県が株式会社迅技術経営に委託した石川県民間提案型継続雇用創出事業「伝統的工芸品産業事業者の魅力伝える知的資産経営作成事業」により作成いたしました。